

地場産業活性化の人材育成プログラム

明治大（東京）が飯田市で開く地場産業活性化に向けた人材育成プログラムで二十七日、商学部の大友純、小川智由の両教授が同市の飯伊地域地場産業振興センターで講義をした。昨年十二月にプログラムが本格的に始まって以降、教授陣が飯田で直接講義するのは初めてで、十五人が受講した。

明大教授が初の直接講義

講義ではまず大友教授が事業立案に向けて「飯田という都市を、どんな問題を抱えているか」として売り出す基本を説明した。

受講生は三班に分かれ、若者向け音楽イベントや地元農産物を使った新商品開発といったアイデアを発表。具体化に向け両教授から助言を受けながら「都会の人に飯田を『第二のふるさと』として売り込むことはできないか」「女性にうまくアピールできれば、その夫や彼氏も一緒に呼び込める」などと議論した。

これまでは受講生が東京を訪れたり、テレビ会議システムによる遠隔講義で実施。今後も遠隔講義や飯田での直接講義を続け、三月に具体的な事業の発表会を開く。大友教授は「面白いアイデアが出てきており、受講生の地元への愛情を強く感じる」と話していた。

飯田市で初めて直接講義をし、受講生にアドバイスする大友純・明大教授（右）

飯田の売り出し方助言

